

平成 27 年度第 1 回臨時理事会議事録

日時 平成 27 年 4 月 9 日 (木) 11:00~13:00
会場 パシフィコ横浜 会議センター 3 階 301、302

出席者：

理事長：小西 郁生

副理事長：岩下 光利、平松 祐司

理事：青木 大輔、綾部 琢哉、苛原 稔、榎本 隆之、大道 正英、片渕 秀隆、
加藤 聖子、吉川 史隆、木村 正、工藤 美樹、久保田俊郎、小林 浩、杉山 徹、
千石 一雄、竹下 俊行、竹田 省、堂地 勉、藤井 知行、峯岸 敬、八重樫伸生、
吉川 裕之、若槻 明彦

監事：落合 和徳、嘉村 敏治、吉村 泰典

第 68 回学術集会長：井坂 恵一

特任理事：海野 信也、齋藤 滋、種部 恭子、南 佐和子、宮城 悦子

理事会内委員会委員長：水沼 英樹

第 67 回学術集会プログラム委員長：岸 裕司

第 68 回学術集会プログラム委員長：伊東 宏絵

第 69 回学術集会プログラム委員長：三好 博史

幹事長：澤 倫太郎

副幹事長：阪埜 浩司

幹事：上田 豊、加藤 育民、北澤 正文、桑原 章、佐藤 豊実、佐藤 美紀子、
下平 和久、関根 正幸、高倉 聡、多賀谷 光、西郡 秀和、西 洋孝、西ヶ谷 順子、
増山 寿、松村 謙臣、矢幡 秀昭、山下 隆博

議長：佐川 典正

副議長：清水 幸子

名誉会員：五十嵐 正雄、宇田川 康博、神保 利春

陪席：久具 宏司

弁護士：平岩 敬一

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄

11 時 00 分 理事長、副理事長、常務理事、理事の総勢 25 名のうち、全員が出席し、定足数に達したため、小西郁生理事長が開会を宣言した。小西郁生理事長が議長となり、議事録署名人として、理事長、落合和徳監事、嘉村敏治監事、吉村泰典監事の計 4 名を選任し、これを承認した。

冒頭に未来ビジョン委員会から、公募していたマスコットキャラクターについて、本理事会の参加者の投票により決定したいとの提案があり、投票を行った。

I. 平成 26 年度第 4 回理事会議事録承認の報告

平成 26 年度第 4 回理事会議事録を、通信にて平成 27 年 3 月 20 日に承認したことを確認した。

II. 業務担当常務理事報告

1) 総務 (岩下光利副理事長)

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向

- ①井上正樹名誉会員（大阪）が1月5日にご逝去された。（偲ぶ会は3月29日に開催された）
- ②渡邊義男功労会員（千葉）が1月16日にご逝去された。（千葉地方学会から3月4日報告受領）
- ③鈴木伸一郎功労会員（埼玉）が昨年8月27日にご逝去された。（埼玉地方学会から3月27日報告受領）
- ④赤堀和一郎功労会員（岡山）が3月24日にご逝去された。（岡山地方学会から3月30日報告受領）

(2) 平成26年度入会年度別・卒業年度別新入会員数および平成26年度末会員数について 平成27年3月31日現在の会員数は16,236名であった。〔資料：総務1〕

(3) 平成27年度臨時総会「第2議案 定款施行細則の変更に関する件」の修正案について 臨時総会では、原案の定款施行細則第17条2項「顧問は、理事長の命により会務に従事する。」を削除した修正案を提出したい。〔資料：総務1-1〕

岩下光利副理事長「顧問の仕事については、今回同時に改定する定款で明記されており、定款施行細則での項目は削除した方が良いという判断になった。」
本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 鑑定人推薦委員会委員長の岡井崇先生の辞任に伴い、竹田省先生に後任の委員長をお願いしたい。 任期は6月の定時総会までである。なお3月11日付で最高裁判所医事関係訴訟委員会より推薦依頼のあった案件も竹田先生に担当をお願いしたい。 本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(5) e 医学会について

①現在の状況

阪埜浩司副幹事長「e 医学会カードによる学術集会の受付は、本日スタートしている。またログイン率はおよそ60%に上がってきている。」

②京葉コンピュータサービスと基本契約書および第3フェーズの開発契約書を締結したい。

〔資料：総務2-1、2-2〕

阪埜浩司副幹事長「第3フェーズは会員管理のためのシステム開発である。会員情報のシステムフォーマットを統一し、会員の異動についてオンライン上で扱えるようになる。」

小西郁生理事長「システム開発については予算の問題もあるので、何をどこまで開発するのかを理事会に諮りながら進めていくこととしたい。」

落合和徳監事「会員管理を本会が行うのは当然であるが、地方学会にもその情報は共有されるのか。」

岩下光利副理事長「従来、会員の情報は地方学会から本会に送られてくる。入退会についてはそれは変わらないが、異動についてはオンラインで情報を把握することになる。」

落合和徳監事「本会による管理ということは本来あるべき姿に近づくわけで、地方連絡委員会などでもよく説明しておいてほしい。」

水沼英樹委員長「本会で会員管理を行うようになると、地方学会に入らない会員が出てこないか。」

阪埜浩司副幹事長「今回のシステム開発の目的は、地方で集めている会員情報の標準化・本会との共有化および異動管理の迅速化であり、会員の入退会の流れについて変えるつもりはない。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) ワーク・ライフ・バランスホームページの今後の運用について

南佐和子特任理事「4月1日にホームページを公開した。今後は男女共同参画・女性の健康週間委員会の下で継続して進めていきたい。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(7) UMIN インターネット医学研究データセンターのサービス利用にかかる研究必要経費について UMIN 側と協議した。新たに覚書を締結して、開発費用 300 万円を支払うことにした。

[資料：総務 3]

(8) カタログギフトを通した一般からの寄附募集について

リンベル社のカタログに、本会サマースクールなどの若手育成活動への寄附を募集するページを掲載し、広く一般から寄附金を募ることとした。[資料：総務 4]

吉川史隆理事「寄附募集についての本会の掲載内容は、産婦人科医を増やすという目線であり、他団体の内容と比べて公益活動としての目線が弱いのではないか。」

岩下光利副理事長「春号のカタログについてはこれで掲載されているが、次の秋号については公益社団法人として社会的に活動している内容に変えて掲載するようにしたい。」

(9) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会 特になし

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

① 卵巣癌、卵管癌、腹膜癌手術進行期分類の改訂 (FIGO2014 日産婦 2014) について、日本病理学会へ通知し、日本病理学会会員への周知を依頼した。[資料：総務 5]

② 日本婦人科腫瘍学会から、外陰がん・膣がん治療ガイドライン 2015 版への後援依頼があり、婦人科腫瘍委員会で検討した上でこれを承諾した。[資料：総務 6]

(ハ) 周産期委員会

① 平成 27 年度周産期委員会の小委員会 (新生児科医、産科医の偏在是正に対する方策の検討) に関する日本小児科学会との合同委員会の設置について [資料：総務 7]

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(ニ) 女性ヘルスケア委員会

① ホルモン補充療法ガイドライン 2012 頒布状況について
3月31日現在、入金済 8,287 冊。

② 女性アスリート健康支援委員会が主催している女性アスリート診療のための産婦人科医師対象講習会は、2015 年度の開催を予定していた大半の都府県で一時休止となった。関係の地方学会には本会および日本産科婦人科医会より通知を送った。

小西郁生理事「女性アスリート健康支援委員会の委員長にはスポーツ団体の方になっていただくことになった。しかしこれは重要なテーマなので、委員会の活動には今後も本会も参画していきたい。」

③ OC/LEP ガイドラインの発行を下記の通り予定している。

発刊時期：2015年11月

頒布価格：4,000円（税・送料込み）

初版発行部数：8,000部

編集・監修：日本産科婦人科学会

発刊までの予定

- 1) 6月中旬にコンセンサスマーティング後の最終原稿を事務局へ提出
↓巻頭言の執筆依頼/受領
- 2) 8月初校出し（8月下旬初校戻し）
↓修正の量にもよるが戻しまで2週間程度
- 3) 9月中旬再校出し（9月下旬再校戻し）
学会雑誌11月号にアナウンス掲載準備
- 4) 10月上旬念校出し
- 5) 10月中旬校了
- 6) 11月上旬発刊

若槻明彦委員長「学術集会中の土曜日にコンセンサスマーティングを開催する。」

④平成26年度に実施した「女性のヘルスケアアドバイザー養成プログラム」を、平成27年度についても実施する（講習会は計5回）。[資料：総務8]

種部恭子特任理事「申込み当日に定員100名のところ160名の申込みがあり、参加をお断りしなければいけない状況になっている。広い会場を手配して対応することを検討している。」

藤井知行理事「修了証を出す基準が甘すぎないか。」

種部恭子特任理事「ワークショップなどを含めて可能なかぎり出席していただくようにすることで今回は対応したい。」

岩下光利副理事長「本会としてはこの分野に力を入れて行きたいということで、修了証を出して終わりというのではなく、継続的に関与する会員を増やしていただければと思う。」

種部恭子特任理事「来年は、受講者が女性のヘルスケアのためにHUMAN+などの活動をどのように行ったかなどを確認して行きたい。」

(ホ) 専門委員会小委員会委員について

平成26年度第4回理事会で承認を受けた小委員会設置案をもとに推薦された各小委員会委員は、定時総会後の平成27年度第3回臨時理事会で承認される。[資料：総務9]

(10) 事務局で生じる現金運搬に関して、コーポレートマネーガード保険（保険料54,000円、支払限度1,000万円）に加入したい。[資料：総務10]

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

〔II. 官庁関係〕

(1) 厚生労働省

①厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課より、「健やか親子21（第2次）」の活動テーマに

関する意向調査があり、本会の最も取り組みたいテーマとして「調査研究やカウンセリング体制の充実、ガイドラインの作成等」、「人材育成・養成、現任教育等」、「国民への情報発信・普及啓発等」を回答した。[資料：総務11]

- ②厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課より、母体保護法施行規則の一部を改正する省令の施行についての通知を受領した。本会ホームページに掲載して会員に周知した。[資料：総務12]
- ③厚生労働省保険局保険課より、出産育児一時金等の受取代理制度の届出についての通知を受領した。本会機関誌およびホームページに掲載して会員に周知した。[資料：総務13]
- ④厚生労働省医薬食品局審査管理課および安全対策課より、ポマリドミド製剤の使用に当たっての安全確保の徹底についての通知を受領した。本会ホームページおよび機関誌に掲載して会員に周知した。[資料：総務14]

〔Ⅲ. 関連団体〕

(1) 日本医学会

- ①日本医学会および日本医師会から、「HPV ワクチン接種後に生じた症状に対する診療の手引き（仮称）」編集会議構成員を小西郁生先生に委嘱したいとの依頼を受領した。 [資料：総務 15]
- ②日本医学会を通して厚生労働省保険局より、「医薬品の適応外使用に係る保険診療上の取り扱いについて」の周知依頼があった。本会ホームページに掲載して会員に周知した。[資料：総務 16]
- ③日本医学会を通して厚生労働省大臣官房統計情報部より、疾病、傷害及び死因の統計分類の改正に関する告示についての周知依頼があった。本会機関誌に掲載して会員に周知した。
[資料：総務17]
- ④日本医学会を通して厚生労働省医薬食品局より、献血血液の研究開発等での使用に関する指針の一部改正について周知依頼があった。本会機関誌に掲載して会員に周知したい。[資料：総務18]
- ⑤日本医学会に、新たに日本病態栄養学会が加盟した。

(2) 日本がん治療認定医機構

日本がん治療認定医機構より、5月8日に開催される「2015年度関連学会連絡委員会」の開催案内を受領した。本件は青木大輔先生に出席をお願いした。[資料：総務 19]

吉川裕之理事「今回は取扱い規約の話なので本会が出るが、テーマによれば日本婦人科腫瘍学会が出席の方がよいものもあり、臨機応変に対応するとよい。」

小西郁生理事長「本会と日本婦人科腫瘍学会の2学会を代表して参加していただいたこともあった。」

(3) 日本助産師会

日本助産師会から、「助産録」改訂に関する意見募集の依頼があった。本会ホームページに掲載して会員の意見を募集した。

(4) 日本病院薬剤師会

日本病院薬剤師会から、平成 27 年度から実施する日病薬病院薬学認定薬剤師制度に係る研修会実施機関について、認定申請の案内を受領した。[資料：総務 20]

(5) 日本小児栄養消化器肝臓学会

日本小児栄養消化器肝臓学会より、C 型肝炎母児感染小児の診療ガイドライン作成に際しての協力依頼を受領した。本会には、診療ガイドライン統括委員会、診療ガイドライン作成グループ、システマティックレビューチーム、外部評価委員会への委員の推薦を依頼している。同ガイドラインは 2016 年 7 月に公開予定である。[資料：総務 21]

岩下光利副理事長「非常に重要なガイドラインなので、本会から委員を出すということとし、周産期委員会で委員の推薦をお願いしたい。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) 日本専門医機構

日本専門医機構を通して厚生労働省医薬食品局安全対策課より、PMDA メディナビの普及及び利用促進についての協力依頼を受領した。本会ホームページおよび機関誌に掲載して会員に周知した。
[資料：総務 22]

(7) 学会認定・臨床輸血看護師制度

学会認定・臨床輸血看護師制度の第 1 回認定者が更新時期を迎えるにあたり、同制度を推進する本会を含む関係 5 学会連名で、更新者および全国の輸血を実施している施設の長・看護部長あてに同制度をアピールする手紙を出すことについての確認を求めてきた。[資料：総務 23]

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

[IV. その他]

(1) 日本母乳の会より、第 24 回母乳育児シンポジウム[2015 年 8 月 1、2 日、名古屋国際会議場]の後援名義使用依頼を受領した。経済的負担はなく、これを応諾したい。

(2) 一般財団法人東京顕微鏡院より、遠山椿吉記念健康予防医療賞の応募案内を受領した。
[資料：総務 24]

2) 会 計 (吉川史隆理事) 特になし

3) 学 術 (峯岸敬理事)

(1) 学術委員会

(イ) 会議開催

①第 67 回学術講演会 IS Award 選考委員会を 4 月 10 日に開催する予定である。

(2) プログラム委員会関連

(イ) 第 67 回学術講演会プログラム委員会

(ロ) 第 68 回学術講演会プログラム委員会

①シンポジウム座長について

シンポジウム 1 (周産期) : 鮫島浩 教授 (宮崎大学)、左合治彦先生 (国立成育医療研究センター周産期センター)

シンポジウム 2 (腫瘍) : 三上幹男 教授 (東海大学)、万代昌紀教授 (近畿大学)

(ハ) 第 69 回学術講演会プログラム委員会

4) 編集 (藤井知行理事)

(1) 会議開催

5 月 22 日に第 1 回和文誌編集会議と第 1 回 JOGR 全体編集会議を開催する予定である。

(2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況 : 2015 年投稿分 (3 月 25 日現在)

Accept	10 編
Reject	135 編
Withdrawn/Unsubmitted	67 編
Under revision	20 編
Under review (審査中)	94 編
Expired	0 編
投稿数	326 編

(3)産科危機的出血への対応ガイドライン (5 学会共同作成) の転載許諾依頼について、本会としては転載料を徴求することとした。 [資料 : 編集 1]

藤井知行理事「JOGR への専門委員会および小委員会からのレポートは invited article として投稿いただきたい。また過去 2 年間の論文の中から表彰する制度があるが、今回 2 名の先生が表彰される。」

5) 渉外 (木村正理事)

(1) 会議開催

3 月 27 日に日本政府観光局、横浜観光コンベンション・ビューロー、パシフィコ横浜、コングレを交え、FIGO Bid paper 原稿確認のためのミーティングを開催した。

[FIGO 関係]

(1)XXI FIGO World Congress (2015 年 10 月 4~9 日、於 : バンクーバー)にて開催の T-K-J session の日時が 10 月 5 日 (月) 15:30~17:00 に決定した。 [資料 : 渉外 1]

(2) FIGO Award In Recognition of Women Obstetricians/Gynaecologists について、本会が推薦した藤田則子先生が 10 月 8 日バンクーバーにて受賞されることとなった。[資料：渉外 2]

(3) 第 67 回日産婦学会学術講演会后、FIGO Chief Executive Prof. Hamid Rushwan は関西方面の視察を行う予定である。

木村正理事「Prof. Hamid Rushwan は急遽、来日しないことになった。」

(4) FIGO Election Process について [資料：渉外 3]

①理事国および役員推薦について (4 月 30 日締切)

木村正理事「現状の 12 カ国を nominate させていただいた。」

②本会名誉会員 Dr. Ralph Hale (元 ACOG Executive Vice President) が FIGO Honorary Treasurer に立候補し、ACOG Past President, FIGO Executive Board member Dr. James N. Martin より FIGO Executive Board member へ支援依頼文書が発信された。

(5) FIGO World Congress 2021 Bid paper が完成し FIGO へ発送した。

[AOFOG 関係]

(1) AOCOG 2015 (6 月 3~6 日、於：マレーシア クチン)に合わせ 6 月 5 日開催の AOFOG 総会に本会より理事長、渉外担当常務理事が出席し投票権 2 票を行使の予定である。

(2) AOFOG 役員(2015-2017 年)について [資料：渉外 4]

本会としては、落合和徳先生を Vice-President に、水沼英樹先生を Sexual and Reproductive Health Committee Chair に、苛原稔先生を Reproductive Endocrinology and Infertility Committee Chair に推薦したい。

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) AOCOG 2015 に於ける Chien-Tien Hsu Memorial Lecturer として本会から推薦した藤井信吾名誉会員が Lecturer に決定した。

(4) AOCOG 2015 展示会場において JSOG ブースを設置したい。

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(5) AOCOG 2019 開催国立候補について [資料：渉外 5]

[その他]

(1) Medical Laboratory Science Council of Nigeria より第 67 回日産婦学会学術講演会参加希望の連絡を受け、Imo State Government からの派遣者 11 名が学会に参加することとなった。派遣者全員を 4 月 11 日海外ゲストパーティーに招待することとなった。

木村正理事「Nigeria からの参加者は、現時点ではまだ来ていない。」

(2) 第 67 回日産婦学会学術講演会后、DGGG Prof. Dr. med. Augustinus H. Tulusan 夫妻は関西方面の視察を行う予定である。

(3) 日韓台3か国における若手医師短期研修を促進するための共通情報プラットフォームの設置について[資料：渉外6]

木村正理事「渉外で検討して、各大学にどのような若手医師であれば受け入れ可能であるかなどのアンケートを取って進めていきたい。」

(4) カンボジア支援/JICA 草の根技術協力（工場労働者のための子宮頸がんを入り口とした女性のヘルスケア向上プロジェクト）について [資料：渉外7]

①4月12日にパシフィコ横浜にてカンボジア支援/JICA 草の根技術協力キックオフミーティングを開催する予定である。

②4月17日、草の根技術協力事業実施団体のプロジェクトマネージャー、国内/現地調整員を対象にJICA 国内拠点において開催される草の根技術協力事業 事業マネジメント説明会に本会より木村正渉外担当常務理事、矢野哲先生、小原ひろみ先生、桜田事務局長が出席の予定である。

6) 社 保（青木大輔理事）

(1) 会議開催

①3月20日に第4回社保委員会を開催した。

②4月17日に第1回産婦人科手術評価検討ワーキンググループを開催の予定である。

(2) 外保連ニュース第23号に、特集 先進医療から保険収載された技術 PART IIIとして藤井多久磨先生ご執筆による「腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）(K879-2)」が掲載された。

[資料：社保1]

(3) 3月17日の外保連記者懇談会に於いて、本会より関博之委員が帝王切開手術料に関する調査結果を発表した。[資料：社保2]

7) 専門医制度（吉川裕之理事）

(1) 日本専門医機構

①日本専門医機構は今般、基本領域学会との連携の在り方に関するワーキンググループを設置することになり、本会から阪埜浩司先生を推薦した。第1回会合は4月22日に開催される。

[資料：専門医1]

②日本専門医機構第2回社員総会が3月18日(水)に開催され、吉川裕之委員長が出席した。

[資料：専門医2-1、2-2、2-3、2-4、3]

吉川裕之理事「機構の社員総会では、基幹施設からの認定料徴収を同機構の理事会で決めたことに反対して、定款を変更すべきではないかななどの意見も出ている。また移行期における新基準での専門医更新認定について現在準備ができていいるのは産婦人科だけであるが、本会としても2015年度にス

ターゲットさせるかについては認定料の帰属の問題もあり、少し検討が必要である。」

小西郁生理事長「機構の立場から話をすると、各学会の協力で研修プログラムについては完成に近づいている。いまは実務の分担を決める段階にあり、機構と各学会との様々な意見交換会を行い進めて行きたいと考えている。」

木村正理事「専門医認定については、外科系は一定期間大学が介在するが、内科系は必ずしもそうではないようである。ある程度基本診療領域で統一させないと、これによって若手医師の診療科の選択に影響を及ぼす可能性がある。」

小西郁生理事長「大学と大学以外で切磋琢磨してほしいという考え方もあり、機構は現時点では統一することは考えていないが、地域格差にも関連する面もあるので、機構のなかでも議論をしたい。」

吉川裕之理事「外科学会の動きの方がやや特殊なのかもしれない。」

加藤聖子理事「この問題についての本会での議論と大学での議論を聞いていると相当に温度差があるように思う。基本領域の足並みが揃うのが良いが、情報の周知を図りみんなが納得のうえで進められるようにお願いしたい。」

(2) 地方委員会宛通知

平成 27 年度審査等に関わる各種様式・研修出席証明シール、平成 27 年度専門医認定審査等についての案内を平成 27 年度事業計画を添えて地方委員会宛に 3 月 13 日に送付した。

(3) 専攻医指導施設指導責任者宛通知

①第 67 回学術講演会時に開催される「指導医講習会」参加者連絡依頼状を指導施設指導責任者宛に 2 月 17 日に送付した。

②「指導医の新規申請および暫定指導医から指導医への申請について」の会員へのお知らせを指導施設指導責任者宛に 3 月 23 日に送付した。

(4) 連合地方学会への指導医講習会開催のお願いについて

連合地方学会代表者あてに、指導医の資格要件に含まれる予定の「指導医講習会」開催の依頼を 3 月 16 日に送付した。

(5) 指導医新規申請の資格要件修正について [資料：専門医 4-1、4-2]

吉川裕之理事「指導医新規申請の資格要件に施設要件が入っていたが、この資格は個人に属するので施設要件を付けるべきではない、ということでこれを外すこととしたい。ここで承認されれば総会では報告事項のなかで説明したい。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

8) 倫理委員会 (苟原稔委員長)

(1) 本会の見解に基づく諸登録 (平成 27 年 3 月 31 日)

①ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：66 研究

②体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：599 施設

③ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：599 施設

④顕微授精に関する登録：545 施設

⑤医学的適応による未受精卵および卵巣組織の採取・凍結・保存に関する登録：20 施設

⑥非配偶者間人工授精に関する登録：15 施設

(2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について

3 月 27 日現在申請 452 例 [承認 381 例、非承認 7 例、審査対象外 23 例、取り下げ 5 例、照会 25 例、審査中 11 例] (承認 381 例のうち 11 例は条件付) [資料：倫理 1]

(3) 「着床前診断」に関する見解、細則、様式の改定ならびに「非配偶者間人工授精に関する見解」の一部表記変更について、学会雑誌4月号に先立ってホームページに委員会提案として掲載し、5月8日を期限に会員に意見を求めている。

(4) PGS 特別臨床研究に関する ART 実施施設向けの説明会を4月11日に開催する予定である。

(5) 婦人科腫瘍委員会遺伝性乳癌卵巣癌 (HBOC) の啓発および取り扱い検討小委員会より、「BRCA 遺伝子変異を有する遺伝性乳癌卵巣癌 (Hereditary Breast and Ovarian Cancer: HBOC) に対する取り扱いに関する見解 (案)」を受理した。倫理的な側面、ならびに「見解」として扱うことの必要性に関して意見をまとめ、婦人科腫瘍委員会へ回答する予定である。

(6) 生殖医学会より、生殖医学会機関誌に本会 ART 臨床実施成績報告の英文執筆依頼があり、情報管理委員会に本会データ使用許諾を申請している。[資料：倫理2]

(7) 会議開催

①3月24日に「平成26年度第6回倫理委員会」を開催した。

②4月21日に「平成27年度第1回着床前診断に関する審査小委員会」を開催する予定である。

③5月13日に「平成27年度第1回倫理委員会」を開催する予定である。

9) 教育 (八重樫伸生理事)

(1) 会議開催

4月10日	海外派遣審査委員会
4月11日	用語集用語解説集 女性医学分野打合せ会
4月26日	用語集用語解説集 周産期分野打合せ会

(2) 書籍頒布状況

電子版：3月31日現在

必修知識 2013 単体	301
用語集単体	134
必修知識 2013+用語集	204
合計	639

書籍版：3月31日現在

	頒布数 (冊)
産婦人科研修の必修知識 2013	2,714
用語集・用語解説集改訂第3版	2,736
若手のための産婦人科プラクティス	2,805
専門医筆記試験に向けた例題と解説集 2014	840

(3) 2016年海外派遣選考

4月10日のISを二次審査とする。

主な選考項目は

英語発表が滞りなく行うことができたか

発表態度やプレゼンテーション能力はどうか

質問に的確に回答していたか

発表演題の学問的内容

の4点であり、審査委員としては教育委員会幹事を中心に八重樫伸生先生、加藤育民先生、関根正幸先生、西郡秀和先生、増山 寿先生、多賀谷光先生、西ヶ谷順子先生、矢野哲先生 の8名にお願いする。

(4) 用語集編集委員会に関連して

- ①産婦人科診療ガイドライン産科編 2017 作成委員長より「産科婦人科用語について」のお願いを受領した(2月27日付)。生殖内分泌グループで対応を協議している。
- ②倫理委員会より「非配偶者間人工授精に関する見解」を「提供精子を用いた人工授精に関する見解」と変更することに関連する用語の再検討に関する要望の件を受領した(2月28日付)。生殖内分泌グループで対応していただく。
- ③卵巣腫瘍取扱い規約改訂小委員会より「卵巣腫瘍の組織型用語の進捗」について質問があり(3月2日)、婦人科腫瘍グループで対応した。
- ④用語解説についてはオンライン査読システムを使用することとし、数回のテストを経て4月6日に公開した。

(5) 専門医認定筆記試験に向けた例題と解説集 2015

山梨大学および山梨県統一産婦人科専攻医研修プログラムの先生方に解説の執筆をお願いし、ほぼ予定通り4月3日発刊(頒布価格500円:税・送料込み)の見込みである。

(6) 平成27年度専門医認定筆記試験問題作成について

3回の委員会を開催し、各分野の最終案をまとめた上での最終打合せでは、他分野の先生に分野に特化した人にしか解けないような偏りについて試験問題を検討していただいた。今後は委員長・副委員長で取りまとめを行う。

毎年、大勢の先生方にご協力をいただき試験問題を作成しているが、その性質上、氏名を公表することを控えてきたが、多大な労力と時間を割いていただいているのでできれば専門医合格者一覧を機関誌に掲載する際にあわせてその年の試験問題作成委員会委員氏名を掲載し感謝の意を表したい。

(7) 書籍ネット販売について

書籍販売をネットで開始して2カ月になるが、杏林舎のネット販売に関するスタンスがはっきりせず事務局への問い合わせがあったため、杏林舎と事務局の書籍販売に関する役割のすみわけなどに関してルール作りを図っていく。

また、二重に発送した事案8件があったが、事情説明のうえ全書籍を回収した。今後はこのよう

なことのないよう、また、学会への報告が遅れた（購入者からの電話で判明した）ことについて改善を図るように依頼した。

10) 地方連絡委員会（平松祐司委員長）

地方連絡委員会を4月11日（土）12：00～13：00に開催する予定である。

Ⅲ. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会（加藤聖子委員長）

(1) 会議開催

今回の広報委員会を4月23日（木）に開催する。

(2) JOB-NET 公募情報について

①JOB-NET 事業報告 [資料：広報1]

(3) ホームページアクセス状況について[資料：広報2]

(4) ACOG Website 会員専用ページログイン人数について [資料：広報3]

(5) 会員専用ページアクセス数増加について

加藤聖子委員長「アクセス数増加の一環として、ホームページの『病気を知ろう』コーナーの改定を準備しており、今回の広報委員会で確定させたい。」

2) 未来ビジョン委員会（平松祐司委員長）

(1) レジナビ出展について

大阪（研修医向け）：平成27年5月31日（日）（時間は確認中） 場所：インテックス大阪

東京（研修医向け）：平成27年6月14日（日）12:00～17:00 場所：東京ビックサイト

大阪会場500,000円＋東京会場700,000円＋消費税＝1,296,000円

(2) プロジェクトPlus One セミナー 2015 について [資料：未来ビジョン1]

(3) マスコットキャラクターについて

平松祐司委員長「3カ月の間に46名59点の応募があった。理事会参加者の投票で本日決定したい。」

(4) HUMAN+のWEB 展開について [資料：未来ビジョン2]

(5) ウェブサイトの創設・運用等の商標登録に関する覚書について [資料：未来ビジョン3]

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

3) 震災対策・復興委員会（岩下光利委員長）

(1) 大規模災害対策本部サイトの検収確認の際の協議で、本サイトの使いやすさを向上させるためのシステム変更の必要が生じたため、約91万円のエムプラスへの追加料金が発生した。これについては東日本大震災の海外からの義援金を充当して対応したい。

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

4) 診療ガイドライン運営委員会 (岩下光利学会側調整役)

(1) 産科編委員会 (板倉敦夫委員長)

①会議開催

第2回作成委員会を2月25日に開催した。次回委員会は7月15日に開催する予定である。

②村越 毅先生が医会からの委員として新たに加わった。

③産婦人科診療ガイドライン-産科編2014」頒布状況について (3月31日現在)

書籍版：9,101冊

書籍版+ID/PW付き：4,117冊

電子版ダウンロード：1,786件

(2) 産科編評価委員会 (増崎英明委員長) 特になし

(3) 婦人科外来編委員会 (小林浩委員長)

①会議開催

第3回作成委員会を2月14日に開催した。次回委員会は4月18日に開催する予定である。

②「産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編2014」頒布状況について (3月31日現在)

書籍版：5,777冊

書籍版+ID/PW付き：3,348冊

電子版ダウンロード：1,752件

(4) 婦人科外来編評価委員会 (青木大輔委員長) 特になし

5) コンプライアンス委員会 (工藤美樹委員長)

- (1) 日本医学会利益相反委員会から、「『日本医学会 医学研究のCOI マネージメントに関するガイドライン』の一部改定について」を受領した。産学連携の健全化が求められているなか、外部資金と役務の提供に関する透明性を高め、研究者の行動責任と説明責任を一層明確化するための改定である。[資料：コンプライアンス1]

工藤美樹委員長「配偶者や事務職員、外部委員も規程の対象とすることや報告期間を3年にするなど利益相反に関する指針改定を行い、6月の定時総会に諮りたい。」

吉川裕之理事「がん治療学会でも利益相反規程の改定を進めており、参考にするとよいと思う。」

小西郁生理事長「COIは単に厳格にするだけでなく、個人情報の保護などにも配慮したバランスの取れた健全な姿を取り戻すべきであるように思う。」

苛原稔理事「製薬協などはメディアに叩かれることを極端に恐れており、適切に運用するということの意味についてメディアにも理解してもらう必要がある。」

6) 医療改革委員会 (海野信也委員長)

- (1) グランドデザイン2015Ver2.2をホームページに掲載して会員から意見を募集した。提出された意見を参考にしてVer4.1を作成した。なお総会でもグランドデザイン2015について説明する予定である。[資料：医療改革1、2]

海野信也委員長「主な変更点は、グランドデザイン2010の評価に加え、大規模化が不可能な地域周産期母子医療センター等についての言及を行い、各地域ごとに大学産婦人科・産婦人科医会との協議によって基本戦略を策定し自治体との交渉に本会も積極的に参画すること、を明記した。」

7) 男女共同参画・女性の健康週間委員会（片渕秀隆委員長）

(1) 会議開催

3月4日に、第67回日本産科婦人科学会学術講演会理事長推薦フォーラム「きらきら光るギネ女、ギネメン」打合せ会を開催した。

(2) 女性の健康週間2015について

①3月4日、5日、ステーションコンファレンス東京・サピアホールに於いて、丸の内キャリア塾 女性の健康週間特別セミナーを開催した。参加人数は以下の通りである。

・3月4日（水）：382名（申込人数：725名、テーマ：女性が知っておきたいからだのリズム～いきいき女子力アッププラン）

・3月5日（木）：403名（申込人数：1,207名、テーマ：女性が知っておきたいからだのリズム～アラフォー・アラフィフ健康プラン）

②地方学会担当市民公開講座について [資料：男女共同1]

③女性の健康週間バッジ配布について [資料：男女共同 無番]

片渕秀隆委員長「このバッジは、女性の健康週間のアピールだけでなく、産婦人科そのもののアピールに使ってほしい。コンパクトにしてあるので、白衣などに必ず付けるようにお願いしたい。」

8) 若手育成委員会（齋藤滋委員長）

(1) 会議開催

4月10日に 第9回産婦人科サマースクール打合せ会を開催する。

(2) 産婦人科サマースクールに関連して

①第9回産婦人科サマースクールのプログラムに関しては未定であるが、第67回学術講演会会場でリーフレットの配付ならびにポスター掲示を行う。

②第9回産婦人科サマースクールに関しては、第8回に応募されたが収容人数の関係でお断りした5年生を優先させたいと考えている。事務局より昨年お断りした大学教授に文書でご案内し、希望があれば5月15日受付開始前に参加申し込みを行うようにしたい。

(3) 産婦人科スプリング・フォーラムについて

第5回産婦人科スプリング・フォーラムを3月7日8日の両日にわたり開催した。

ワークショップテーマ：社会に求められる新たなる産婦人科医師のあり方

参加人数：65名

今回は託児施設を設け子育て世代の女性医師に参加しやすい環境づくりを行った。

参加者のアンケート結果を基に来年のスプリング・フォーラムのプログラムを早急に計画したい。

(4) JTOG 準備委員会について

先般の第4回理事会で承認をいただいたので

① 第5回産婦人科スプリング・フォーラムを取材し、学会ホームページを通し海外向けに本会の活動を発信する予定である。

② 本年10月開催 WTOG 参加委員の選考（2名）を行う。

9) 臨床研究審査委員会（水沼英樹委員長） 特になし

10) 医療安全推進委員会（竹田省委員長） 特になし

11) 公益事業推進委員会（竹下俊行委員長） 特になし

12) 情報管理委員会 (久保田俊郎委員長)

- (1) 松田義雄会員より日本産科婦人科学会周産期登録データベース使用申請があった「ハイリスク妊娠チェックリスト作成を目的としたハイリスク妊娠の予後と年次推移並びに帝王切開適応理由の施設間比較と年次推移に関する調査」について審査を行い、3月24日に審査結果(承認)を通知した。
[資料: 情報管理1]

13) 婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会 (井坂恵一委員長)

- (1) 会議開催
5月29日に、平成27年度第1回婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会を開催の予定である。

IV. 平成27年度臨時総会運営について

- (1) 代議員からの質問・要望事項 [資料: 総会1]

佐川典正議長「専門医制度について本会としては、今年度での機構での専門医更新を勧めるのか、来年度にお願いするのかをはっきりしておかないと会員が混乱するのではないか。」

小西郁生理事長「機構の進捗状況を見極めながらアナウンスしていくとしか言いようがない。機構の準備が早く進むようであれば、本会会員にとっても機構で更新するメリットはある。」

佐川典正議長「更新料の扱いなどを含めてきちんと整理されている必要がある。」

吉川裕之理事「機構での更新の仕組みや更新料などについて、中央専門医制度委員会、理事会での承認を得た上でないと、本会として会員に機構の認定を取るようにはお勧めはできないと考えている。」

V. その他

- (1) 周産期医療に関連して

吉村泰典監事「昨日、首相官邸のまち・ひと・しごと創生本部の統括官に周産期医療の状況を説明した。まち・ひと・しごと創生本部においても周産期医療の改善は重要なテーマになっており、今後は大学の先生方と都道府県庁との折衝が行われることになると思う。先生方には周産期医療の厳しい現状をしっかりと都道府県に伝えて行くようお願いしたい。」

海野信也委員長「平成26年度の新規入会者数は368名であるが、これは臨床研修制度がスタートした2006年よりは多いが、400名を超えた2008年以前の状況である。このまま行くと過去20年で最低となる可能性もありえる数値である。」

- (2) 未来ビジョン委員会提案のマスコットキャラクターについては、第1回投票で4案を選出し、第2回投票では2案が同数となったため、挙手の結果、「さんのとり」に決定した。

以上